



## 2019年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年5月7日

上場会社名 手間いらす株式会社

上場取引所 東

コード番号 2477 URL <http://www.temairazu.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 哲男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 木内 健二

TEL 03-5447-6690

四半期報告書提出予定日 2019年5月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年6月期第3四半期の業績(2018年7月1日～2019年3月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第3四半期	992	21.0	635	23.9	634	23.8	417	29.2
2018年6月期第3四半期	819	21.0	512	46.9	512	46.5	323	43.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年6月期第3四半期	64.52	
2018年6月期第3四半期	49.94	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年6月期第3四半期	3,358	3,173	94.5	489.99
2018年6月期	3,087	2,845	92.2	439.43

(参考)自己資本 2019年6月期第3四半期 3,173百万円 2018年6月期 2,845百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期		0.00		14.50	14.50
2019年6月期		0.00			
2019年6月期(予想)				14.50	14.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年6月期の業績予想(2018年7月1日～2019年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,307	17.6	810	17.1	810	17.1	524	13.8	81.06

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年6月期3Q	6,477,702 株	2018年6月期	6,476,400 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2019年6月期3Q	140 株	2018年6月期	140 株
------------	-------	----------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年6月期3Q	6,476,887 株	2018年6月期3Q	6,476,274 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## ①我が国経済の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産活動の回復および企業収益の回復が一段落しつつあるものの、雇用・所得環境の堅調な推移を背景に、個人消費は緩やかな回復傾向を維持しています。

## ②当社経営成績と関連性が高い市場の状況

アプリケーションサービス事業と関連性がある宿泊旅行業界においては、インバウンド需要は、昨年相次いだ自然災害による落ち込み前の水準を、訪日外客数、消費額ともに上回って推移しました。訪日外客数においては、主に東アジアや東南アジアにて、新規就航や増便による航空座席供給量が増加したこともあり、第3四半期における各月にて過去最高の人数を記録しました。日本政府観光局（JNTO）の発表によると、2019年1月から3月の累計訪日外客数は約805万人、前年同期比5.7%の増加となり、政府が目標に掲げる2020年における訪日外客数4,000万人の達成へ向け、順調に推移することが見込まれています。

アプリケーションサービス事業の『TEMAIRAZU』シリーズ販売の増加が、当社全体の経営成績を牽引し、当第3四半期累計期間の売上高は992,101千円（前年同期比21.0%増）となりました。また、営業利益は635,273千円（前年同期比23.9%増）、経常利益は634,746千円（前年同期比23.8%増）、四半期純利益は417,856千円（前年同期比29.2%増）となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

## 1) アプリケーションサービス事業

宿泊予約サイトコントローラー『TEMAIRAZU』シリーズにおいて、国内の宿泊予約サイトおよびシステムとの連携や新機能の搭載により、利便性・機能性の向上を図りました。

サイト連携においては、リソルライフサポート株式会社が運営する福利厚生サイト「ライフサポート倶楽部」の会員専用サイト「メンバーズナビ」との連携を開始いたしました。システム連携においては、xxx株式会社（呼称：エイジィ株式会社）が提供するセルフチェックインシステム「minpakuIN」、メトロエンジン株式会社が提供するレベニューマネジメントシステム「メトロエンジン」との連携を開始しました。

機能面においては、全バージョンにおける予約取得機能のアップデートを実施し、オーバースタックのリスクをさらに減らすことが可能になりました。また、団体宿泊予約を管理することができる新機能「TEMAIRAZU DANTAI Travel」をリリースしました。本機能を利用することで、これまで煩雑だった団体宿泊予約の管理業務が効率化できます。新機能のリリースにより『TEMAIRAZU』シリーズはますます魅力的な商品となりました。引き続き『TEMAIRAZU』シリーズの商品力の向上に取り組んでいます。

営業活動の強化策としては、活動地域を広げた営業活動や、毎年2月に開催される大規模イベント、国際ホテル・レストラン・ショーへの出展をはじめとしたイベント等へ参加しました。国際ホテル・レストラン・ショーへは開催期間の4日間を通して、昨年に比べ約6,000人増の延べ67,171人が来場し、当社のブースにもたくさんの方々にお越しいただきました。また展示会後にもたくさんのお問い合わせをいただき、今後につながる営業活動となりました。

アプリケーションサービス事業の当第3四半期累計期間における経営成績は、売上高は968,691千円（前年同期比25.1%増）となり、セグメント利益は710,374千円（前年同期比25.6%増）に増加しました。

## 2) インターネットメディア事業

比較サイト『比較.com』においては、検索エンジンのアルゴリズム変更の影響により、表示順位に影響が出ております。そのような状況の中、具体的な対応として、検索エンジン最適化のみならず、広告出稿の最適化、ユーザーインターフェイスやサービスの統廃合、コンテンツの再構築等の対策を実施しております。

インターネットメディア事業の売上高は23,410千円（前年同期比48.5%減）となり、セグメント利益は9,485千円（前年同期比57.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末の総資産は3,358,473千円となり、前事業年度末に比べ271,185千円増加いたしました。主な要因は、現預金244,781千円の増加であります。

当第3四半期末の負債は184,512千円となり、前事業年度末に比べ56,892千円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等68,533千円の減少であります。

当第3四半期末の純資産は3,173,961千円となり、前事業年度末に比べ328,077千円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の発生によるものであります。

(3) 経営成績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月期の通期経営成績予想については、2018年8月6日付の決算短信において発表いたしました経営成績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,852,553	3,097,334
売掛金	181,173	204,785
その他	5,138	9,605
貸倒引当金	△5,319	△6,123
流動資産合計	3,033,545	3,305,601
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,167	2,167
減価償却累計額	△2,167	△2,167
建物(純額)	—	—
工具、器具及び備品	29,931	29,931
減価償却累計額	△23,557	△25,645
工具、器具及び備品(純額)	6,373	4,285
有形固定資産合計	6,373	4,285
無形固定資産		
ソフトウェア	611	453
無形固定資産合計	611	453
投資その他の資産		
繰延税金資産	25,932	26,179
その他	28,778	32,742
貸倒引当金	△7,954	△10,789
投資その他の資産合計	46,757	48,132
固定資産合計	53,742	52,872
資産合計	3,087,288	3,358,473
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払法人税等	170,442	101,909
その他	70,961	82,602
流動負債合計	241,404	184,512
負債合計	241,404	184,512
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	709,262	711,290
資本剰余金	1,000,262	1,002,290
利益剰余金	1,136,501	1,460,522
自己株式	△142	△142
株主資本合計	2,845,883	3,173,961
純資産合計	2,845,883	3,173,961
負債純資産合計	3,087,288	3,358,473

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
売上高	819,660	992,101
売上原価	70,640	75,446
売上総利益	749,020	916,655
販売費及び一般管理費	236,407	281,381
営業利益	512,613	635,273
営業外収益		
受取利息	154	333
その他	16	60
営業外収益合計	170	393
営業外費用		
その他	22	919
営業外費用合計	22	919
経常利益	512,761	634,746
特別利益		
子会社清算益	1,224	—
特別利益合計	1,224	—
税引前四半期純利益	513,985	634,746
法人税、住民税及び事業税	190,227	217,137
法人税等調整額	357	△246
法人税等合計	190,585	216,890
四半期純利益	323,400	417,856

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	アプリケーション サービス事業	インターネット メディア事業	合計	調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
(1) 外部顧客への 売上高	774,193	45,467	819,660	-	819,660
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	774,193	45,467	819,660	-	819,660
セグメント利益	565,602	22,516	588,118	△75,505	512,613

(注) 1. セグメント利益の調整額△75,505千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	アプリケーション サービス事業	インターネット メディア事業	合計	調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
(1) 外部顧客への 売上高	968,691	23,410	992,101	-	992,101
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	968,691	23,410	992,101	-	992,101
セグメント利益	710,374	9,485	719,860	△84,586	635,273

(注) 1. セグメント利益の調整額△84,586千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。